



みどりの風

平成29年9月号 在籍児童数482名

学校教育目標

- 自ら考えのびる子
- 思いやりのある子
- 進んで体をきたえる子

それぞれの夏休み

校長 吉野 高男

今年の夏は、「戻り梅雨」などという聞き慣れない言葉がまさに当てはまるような曇り空や雨が続いた夏でした。そんな夏休みを子ども達はどのように過ごしたのでしょうか。保護者の皆様や地域の皆様に見守っていただいたおかげで、子ども達は事故なく夏休みを過ごすことができました。ありがとうございました。

また、7月23日（日）～25日（火）には、5年生が林間学校で志賀高原へ行ってきました。やや不安定な天候ながら、概ね予定した活動を行うことができました。2泊3日の共同生活を通して子ども達は多くのことを学び、一回りも二回りもたくましくなって帰ってきました。

その林間学校でも、本校の子ども達らしい「さりげない優しさ」が溢れていました。同宿の久喜東小の子ども達と心温まる交流の場面がありました。その自然体の「さりげない優しさ」に感心した同校の校長先生から後日、お褒めのお電話を頂き、恐縮するとともにとても嬉しく思いました。このような「篠っこ」らしい優しさをこれからも大切に育てていきたいと改めて思いました。

さて、先日NHKのクイズバラエティー「クイズ リアル日本人 夏休み・お盆」というアンケート結果をもとにしたクイズ番組を見ていたら、興味深いデータに出会いました。子どもたちにとって、夏休みは多くの自由な時間を通して様々なことに取り組める楽しい期間のはずですが、意外にそれがそうでもないという一面があるようです。小学生を調査したもので「夏休みは楽しいですか」という問いに対して、「どちらともいえない」という回答が何と約40%でした。もちろん「楽しい」と回答した子が約60%になるわけですが、そうでもないと感じている子どもが結構多いことに何となく納得できました。さらに、「どちらともいえない」と回答した子にその理由を訊ねたところ、1位の回答が「宿題が多くて大変だから」で、2位に「友達と会えないから」があげられていました。思えば私が小学生の頃は、夏休みというと、朝からのべつなく屋外で子ども同士で遊んでいたものですが、現代の小学生は様々な制約や交通事情でなかなか友達と過ごすこともできないようです。子どもは子どもとともに生活し、遊んで学ぶことで成長するものです。実は現代っ子もそんな環境に飢えているのではないかと思います。

本校では、授業の中で子ども達が「互いに聴き合い 支え合い」ながら学び合う関係を築いていく授業を推進していますが、もしかすると、本校の子ども達の中にも夏休み中、友達との関わりを十分にもてず、寂しい思いをしていた子がいるかもしれません。

さあ、2学期のスタートです。それぞれの夏休みの思いを胸に、再び子ども達の元気な声が校舎に戻ってきました。2学期の教室にも子ども達の多くの学び合いが見られることでしょう。「楽しく学ぶ学校」の再開です。

保護者の皆様、地域の皆様、2学期も重ねてよろしくお願いたします。